

スモモ「ソルダム」完熟果の消費者評価と果実適性（収穫・貯蔵）

「ソルダム」の完熟果は中熟果に比較し色・食味が優れており、価格評価も高い。また、樹上での完熟果の保持期間は7日程度、収穫後の鮮度保持期間は常温で6日程度である。完熟果の収穫時期は新盆頃であり、地産地消の新盆商品として考えられる。

農業研究センター企画調整部（尾山 健）、果樹研究所落葉果樹研究室（中満一晴）

研究のねらい

「ソルダム」では、①収穫期間が長い、②収穫後の日持ちが良い、③輸送に耐える等の理由から未熟果（2分着色）での収穫が大半で、残りは中熟果（5分着色）である。消費者の食味志向が高まる中、完熟果（7分着色）の需要も多くなると考えられる。そこで、完熟果の食味・価格を消費者評価するとともに、樹上での保持期間と収穫後の鮮度保持期間を調査し、輸送距離が短い地産地消商品としての価値や適性を明らかにする。

研究の成果

1 消費者評価について

- 近隣地域へ地産地消農産物として出荷することを考え、直売所で試食アンケート方式により消費者評価を行った結果は以下の通りである。（回答数120名、50～60才代80%、女性75%）
- (1) 普段購入する果物は、バナナ・イチゴ・スイカが多く70%を越え、スモモは30%である（図1）。
 - (2) 中熟果と比較して完熟果の試食評価は、すべての項目で完熟果が支持されている。特に「色」の評価が高く、次いで「軟らかさ」、「甘み」の順に評価が高い（図2）。
 - (3) 完熟果を支持する消費者は中熟果を支持する消費者より2倍以上多く、17円の価格優位性がある。完熟果を支持する消費者は79円の価格差を示しており、30%の購入確率で95円の価格差である（表2、図3）。
 - (4) 以上のことにより、完熟果を嗜好する消費者は多く、①完熟果を嗜好する消費者に販売する、②完熟果の販売率を37%（完熟果の嗜好割合）以下で販売する方法により、完熟果の価格優位性を発揮できると考えられる。

2 栽培技術について

- (1) 樹上での完熟期間は約7日間であり、完熟状態から落果までに要する日数は約10日間である（図4）。
- (2) 完熟果の日持ち性については、常温で6日後の軟化率が10%である（図5）。
- (3) 以上のことにより、完熟果は樹上での保持期間や収穫後の鮮度保持期間が制限されるので、完熟後1週間以内に収穫する計画的作業、収穫後は常温下で6日以内に消費する出荷販売体系の確立が必要である。

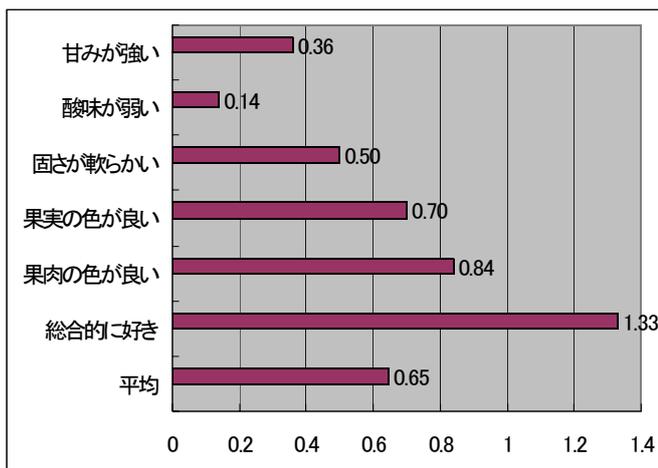
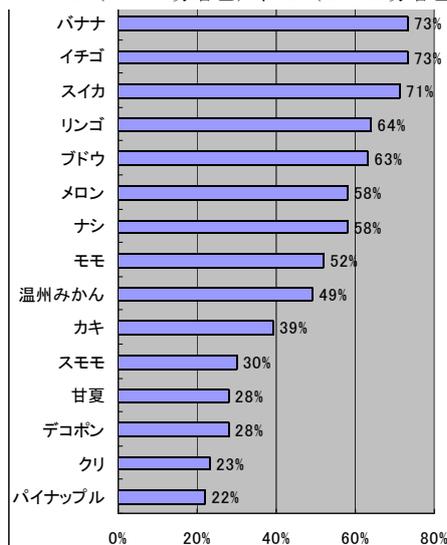
普及上の留意点

- 1 収穫前に雨の多い年は、樹上での完熟果の保持期間が約1日と短く、収穫後の常温での鮮度保持期間も3日以内と極端に短くなるので、そのような年は、中熟果になった時点で収穫する。
- 2 収穫後の貯蔵温度は0～5℃が適する。10℃での貯蔵は常温より日持ちしない。
- 3 露地栽培では夜蛾被害の可能性があるため、防虫ネット等の施設が必要である。
- 4 常温貯蔵では、パックの中に傷み果が混入していると他の健全果まで早く軟化するので、夜蛾の刺し傷等を見落とさないよう選別を徹底する。

表1 「ソルダム」の熟度別果実品質

熟度	1果重 (g)	糖度 (Brix)	果肉硬度 (kg)	pH	果皮着色 (1~6)	果肉着色 (1~6)
完熟	99	13.3	1.4	4.20	4.8	5.1
中熟	101	13.0	1.6	3.85	3.6	3.4
未熟	92	12.1	1.9	3.55	2.4	2.7

注) ・2003, 2005年の平均値
 ・果皮・果肉着色は(0~1分着色)、2(2~3分着色)、3(4~5分着色)、4(6~7分着色)、5(8~9分着色)、6(完着)の6段階評価



※-2(悪い)~2(良い)までの5段階から選択

図1 普段購入する果物(複数回答)

図2 完熟ソルダムの評価(追熟ソルダムと比較して)

表2 「ソルダム」の購入予定価格(評価分類)

評価傾向	人数	完熟 価格	追熟 価格	価格差
完熟を評価	41	369	290	79
同等に評価	53	321	321	0
追熟を評価	16	317	366	-48
合計・平均	110	338	321	17

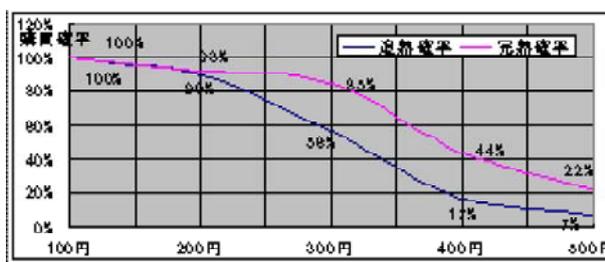


図3 「ソルダム」の購買曲線(完熟評価者)

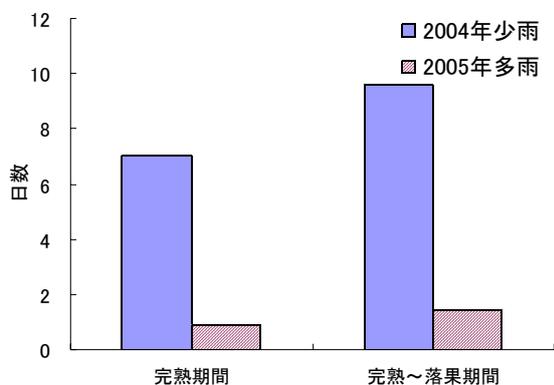


図4 収穫前降水量と樹上での完熟果の保持期間との関係

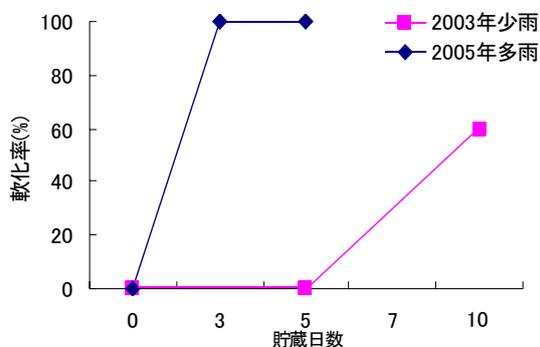


図5 収穫前の降水量と収穫後の日持ち性との関係